

## 成果の説明書

(氏名) 宮田 剛志	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
○研究成果	
(1) 著書	
宮田剛志「主要作物の立地変動⑦養鶏・養豚」日本農業経済学会編『農業経済学事典』丸善出版、2019年、pp.444-445。	
(2) 科学研究費補助金 基盤研究C 研究分担者(～平成31年度)	
①宮田剛志「コメント2」『農業経営研究 研究大会シンポジウム報告 統一課題 農業経営における経営戦略の実証的検討—先進事例にみる経営戦略の実態と適用可能性—』第57巻第1号(通巻180号)、2019年、pp.48-50。 大会シンポジウム第1報告、第4報告に関するコメントを『農業経営研究』に掲載(査読あり)。	
②申錬鐵・宮田剛志「口蹄疫発生後の養豚経営グループの変質と課題-成長と安定性を実現していた家族経営・法人経営に焦点をあてて-」『農業経営研究』第57巻第4号(通巻183号)、2020年、pp.67-72。	
③宮田剛志「北関東における農地中間管理事業の成果と課題-群馬県を事例として-」『農業問題研究 シンポジウム特集号』2020年(受付 2019年10月8日 受理 2020年2月14日) 宮田(2018)を踏まえ、前橋市の集落営農法人(農)二之宮の調査等々を行い、政策が考える農業経営への発展の可能性のある集落営農の実態から、さらに、大きく事業を展開させている過程での農地中間管理事業の活用に関してシンポジウム報告に関する論文が受理された。	
④申錬鐵・上原正・宮田剛志「養豚における経営継承プロセスの分析-群馬県下仁田ミート株式会社におけるケース・スタディ-」日本農業経営学会個別報告 於:東北大学 2018年9月8日	
⑤宮田剛志「コメント」『畜産の過去・現在・将来を考える』畜産経営経済研究会創立50周年記念シンポジウム 於:東京大学経済学部 令和2年2月22日 研究会創立50周年記念シンポジウム第3報告に関してコメントを行なった。	
(3) 依頼原稿	
①宮田剛志「TPP 協定交渉の大筋合意以降の制度改正と酪農の生産基盤の現状」『農業と経済』第85巻第6号、2019年、pp.24-36。	
○学会活動	
(1) 令和元年度 学外論文査読・審査本数:2本(英文1本)	
○社会活動	
(1) 第58回 農林水産祭 中央審査委員会 委員 農林水産大臣	
(2) (公財)群馬県農業公社 農地中間管理事業評価委員会 委員(平成30年度～)	
(3) ぐんまアグリノベーション研究会(県内の生産者の方々を中心とした研究会)	

○教育活動

(1) 演習 I・II

①日本フードシステム学会 教育支援システム

日本フードシステム学会における教育支援システムでは、「食品企業における最先端の製品・技術開発や経営戦略について、社会科学的な観点から学ぶ」ことを実施目的とし、平成 28 (2016) 年度から年 2 回のプログラムを実施している。本プログラムは、学会長中嶋康博 (東京大学)、実行委員長木島実 (日本大学)、委員佐藤奨平 (日本大学)、ファシリテーター中嶋晋作 (明治大学) 等々の学会関係者によって、何より大手食品企業のご支援の下で、その取り組みが推進されている。

i) 2019 年度サマースクール 於：東京大学農学部 令和元年 8 月 24 日

( <https://www.fsraj.org/education-support-system/2019%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e3%82%b5%e3%83%9e%e3%83%bc%e3%82%b9%e3%82%af%e3%83%bc%e3%83%ab%ef%bc%88ss%ef%bc%89%e3%81%ae%e9%96%8b%e5%82%ac%e5%a0%b1%e5%91%8anew%e2%80%bc> )

マルハニチロ(株) 中央研究所 リサーチ二課課長役 高橋義宣氏

味の素(株) 食品事業本部 家庭用事業部メニュー調味料グループ長 杉田博司氏

お 2 人の講師をお迎えし、ワークショップが開催され、学部 3 年生 2 名が参加した。参加者は 11 名 (学部 3 年生 11 名)、内訳は大阪成蹊大学、東京大学大学院、東京農業大学大学院、中村学園大学、日本女子大学、日本大学、明治大学である。なお、2018 年度ウィンタースクールより可能となった教員・事務局の参観により、お 2 人の講師を囲んでの様々な有意義な交流が可能となってきている。研究者としてもこのような機会から「学ぶ」部分が非常に大きいと考える。

ii) 2019 年度ウィンタースクール 於：東京大学農学部

昨今の新型コロナウイルス感染予防の観点から、委員会において開催の有無が検討された結果、中止せざるを得ない状況と判断された (2020 年 2 月 24 日)。

( <https://www.fsraj.org/fsraj/wp-content/uploads/2020/02/9f1a2a15730fd5321be003e47ae6a4f7.pdf> )

②大分県豊後高田市

大分県豊後高田市にて、豊後高田市農業経営サポートセンター、集落営農法人、建設業の水田農業への参入、集落営農法人間連携の今日までの経緯等に関する調査を行った。同時に、学部学生に対し調査、論文化等の機会を提供して頂いている。

なお、本調査を実施するにあたっては、大分県農林水産部、大分県北部振興局、大分県農林水産研究指導センター、豊後高田市農業ブランド推進課、豊後高田市農業経営サポートセンター、各集落営農法人の代表理事、(有)B 法人の代表取締役等々の関係各位に、いつもながら、突然、かつ、長時間にわたる調査にご協力頂いている。

③群馬県集落営農法人

農業問題研究学会 2019 年度春季大会シンポジウム報告を行なうにあたって、調査を実施していた群馬県内の集落営農法人に関してその対象を広げ、調査を継続している。同時に、学部学生に対し調査、論文化等の機会を提供して頂いている。

なお、本調査を実施するにあたっては、群馬県中部農業事務所、伊勢崎地区農業指導センター、各集落営農法人の代表理事等々の関係各位に、いつもながら、突然、かつ、長時間にわたる調査にご協力頂いている。

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

○研究活動

(1) 日本農業経営学会 論文投稿

(2) 日本農業経済学会編

①論文投稿

②書評

(3) その他、国内外への研究成果の発信

○学会活動

令和2年度 学外論文査読・審査本数の継続

○社会活動

(1) 農林水産省、その他

(2) (公財) 群馬県農業公社農地中間管理事業評価委員会委員 (~平成30年度)

(3) ぐんまアグリイノベーション研究会 (県内の生産者の方々を中心とした研究会)

○教育活動

演習 I・II

(1) 日本フードシステム学会 教育支援システム

(2) 大分県豊後高田市

(3) 群馬県集落営農法人